

## 自分らしくが湘南流

暮らしの中に、もっと生の音楽と  
ふれあえる時間と空間を——。  
そう願って自宅で音楽サロンを開いています。

### コンサートホールのある家

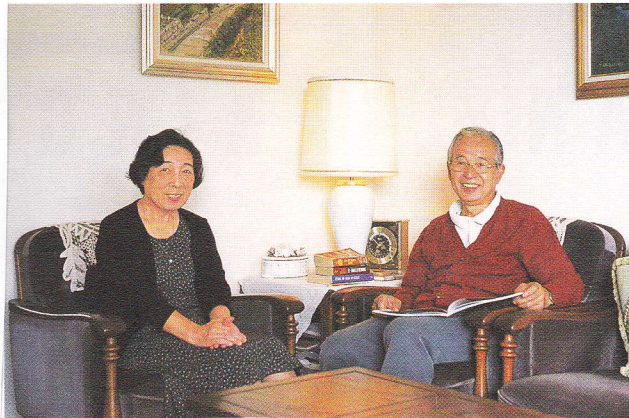
のびやかな風が四方から吹き抜けていく広大な丘。遙か遠くには、富士山や伊豆の山々までの絶景を見渡すことができます。この丘の上に広がる一大住宅地、湘南国際村の一角に、中西淳子さんのお宅はありました。

「この場所を初めて訪れたとき、素晴らしい景観に恵まれた別天地のようで、とても感激したんですよ」と、親しみやすいお人柄がにじみ出る中西さん。

「と同時に、人里離れて暮らすような不安も正直ありました。でもだからこそ、人がたくさん集まって来てくれる賑やかな家にしようと主人と話し合い、以前から温めていた夢を実現させたんです」

長年ピアノの講師として活躍されている中西さんは、日常の中にもっと生の音楽にふれる時間と空間をと思い、コンサートホールのある家をここに建てたのです。

玄関を入れて右側がご自宅。そして左側には、天井が高く音響



効果抜群の小ホール、その中央には風格ある1923年製のスタンウェイグランドピアノが……。50人は収容できるこの「サロン・コリーナ」では、アットホームなサロンコンサートが度々開かれ、美しいクラシックの調べが風に乗って周囲へと広がっていきます。

### 海の向こうへ橋を渡す仕事

中西さんがこうした生活をするようになったきっかけは、ご主人の仕事の関

係で過ごしたニューヨーク駐在時代にありました。

「向こうでは音楽を身近で愉しむ文化が根づいていて、生演奏を普段から家庭で聴く機会も多かったんです。とても刺激を受けました。学校でも先生が、子どもたちを校外の演奏会に連れて行っていましたね。小さい頃から本物の音にふれるって大事だなと思います。CDで聴くのと生の音とは、全然違いますから」

滞在中、あの有名なジュリアード音楽院のピアノ文献学の世界的権威、ジョセフ・ブロッホ教授と出会ったことも、中西さんの世界をさらに大きく広げました。

「帰国後もおつきあいは続き、6、7年毎年我が家に来て演奏会をされましたが、お年を召してからはご自分の代わりに有望なアーティストたちを送ってくるようになったんです。ホテルでは練習場所もないため、思い切り演奏ができるこの家は格好の宿泊所。私も彼らの発表の機会を日本で作ったり、逆に日本の演奏家を海外につないだりするようになりました」

こうして中西さんは若手音楽家たちの育成を手伝うようになり、このサロンは世界中から音楽家が頻繁に集まり、交流する拠点になっていったのです。

### 社会へお返しできること

かつて学生時代に、精神科医の神谷美恵子氏に精神衛生学を学んだことが、今でも心に深く刻まれている、と

語る中西さん。特に50歳を過ぎてから、社会へ恩返しできること、貢献できる生き方を自分自身に問いかけてきたそうです。

「音楽を通して出会った人や広がった世界への感謝の気持ちを、今度は私が社会へお返しする番だと思っているんです」

プロ・アマ問わず音楽家の方々の発表の場としてホールを開放したり、プロのコンサートの収益金を福祉施設に寄付してきたのも、そんな思いから。「今後もっと大事だと思うのは、子どもたちに生の演奏を届けること。子どもは次の時代を担う社会の宝物ですから」

こうした活動を全面的にバックアップしているのが、ご主人の隆夫さん。堪能な英語で海外と連絡調整をしたり、惜しみない協力をしています。また絵画、エッセイ、詩など多彩な趣味を活かして、国際村在住者向けのミニコミ紙を作るほか、音楽を通して人と人がふれあえるイベントも奥様と一緒に企画しています。

来客者が多い中西家のために、玄関にあふれてしまう靴を並べる棚を手作りしてくれたのは、地域の方々なのだとか。気さくで世話好きなおふたりの人柄ゆえか、コミュニティーにはさらに温かい交流が生まれているようです。

人生の実りを自らが生活する足元へと還元しているご夫妻。その素敵な暮らし向きが、豊かな音色を奏でる音楽のように心の中に響いてきました。

問合せ：☎046-855-3575

www.diana.dti.ne.jp/~tmcjapan/